



世界に広がる“からし種運動”のネットワーク「声なき者の友」の輪
ニュースレターVol. 39 (2020年12月発行)

創立10年の感謝

口のきけない人のために、口を開きなさい。すべての不幸な人の訴えのために。

口を開いて、正しくさばき、苦しむ人や貧しい人のためにさばきを行いなさい。(箴言 31:8-9)

テロ・内戦など、激動している21世紀、世界の様々な場から悲痛な声が上がっています。ネット上には膨大な情報が飛び交っているにもかかわらず、私たちの耳目に到達することは稀です。このような「声なき者」の「友となる人々」のネットワークが形成されることが神の思いであると確信し、FVIを創立してから10年が経ちました。この働きに多くの方々が共感してくださり、主の守りをいただき、ここまで支えられてきたことは感謝のかぎりです。ありがとうございます。

代表カタリスト 神田英輔

世界食料デー登別大会でのエチオピア活動報告

今年のノーベル平和賞は、世界各地で食料支援を行う国連機関 WFP (世界食糧計画) が選ばれました。国際社会共通の目標として掲げられている SDGs(持続可能な開発目標)には、「1.貧困をなくそう 2.飢餓をゼロに」と掲げられていますが、この大きな課題解決に、個人は無力なのでは?とってしまう方もいるかもしれませんが、世界食料デー登別大会を訪れる度、「小さな個人ができることを継続する」力強さを思われます。

私(湯本)は2013年に初めてエチオピアを訪れストリートチルドレンや売春女性たちの救援活動に関わり始め、2017年からは現地で接客サービスの人材育成をするビジネスの立ち上げ、現地小学校の支援などの活動をしてきました。今年も渡航することを計画していましたが、コロナ禍のためしばらく見合わせる事になりました。様々なチャレンジにぶつかりながら、ようやく現地の活動が動き始めた矢先に計画の練り直しを迫られた時、心身の疲労感を覚え、目標を見失った感覚に陥って気落ちしている私がありました。そんな中、活動報告のために訪問した登別で見たのは変わらずにエチオピアの方々を思い、「自分にできる小さなこと」を継続している皆さんの姿でした。それは何よりも力強く、勇気と励ましを与えてくれるものでした。

この時代に私がエチオピアの人々と共に歩む恵みに与ることができているのは、エチオピアを愛し仕えてきた先駆者の方々の労苦や、このニュースレターの先で、働きを覚えて祈り支え続けて下さっている皆さんとの繋がりがあからこそ、キリストの体として結び合わされている恵みを覚えるばかりです。今遣わされている”日本”で自分にできることをし続けながら、これからも、関わりが与えられたエチオピアを覚え、祈り、備えていく所存です。

湯本沙友里



「世界食料デー」登別・啓発活動 ～36年のあゆみを振り返る～ 「広げよう小さな心 飢えに苦しむ 世界の友へ」～登別から世界へ～



2019年第28回大会・国連食糧農業機関(FAO)駐日事務所代表を迎えて

1984年の夏、報道でエチオピア大飢饉を知ったことが始まりでした。100万からのいのちが犠牲になっていると言うのです。牧師の私は、“教会で愛を語るが、愛の実践は無し”を痛感し、できることは何か、を妻や5人の子どもと相談しました。「エチオピアってどこにあるの？」わが子の素朴な疑問に、世界地図を広げたことを思い出します。

間もなく「わが家の節食会（毎水曜・納豆の日）」がスタートしました（節約した食費を世界の飢餓のために募金する習慣。現在も継続中）。1984年。登別アフリカ飢餓の国を支援する会が教会にて発足し、市民に飢餓支援の呼び掛けを始めました。1985年には米国大統領の飢餓特命大使、ラリー・ワード博士をFHI・神田師から紹介され、初の講演会を「飢餓からの脱出」の映画上映とともに開催し、1991年まで7年間、続けて来ました。1992年。有志に呼び掛け、市内の諸団体から成る「世界食料デー登別大会実行委員会」を発足。新たな組織で国連の日「世界食料デー（10月16日）」の啓発活動を市民全体に展開するようになり、以来30年の市民活動として定着しています。幅広い委員会構成により高校生のボランティア参加も実現。今では町全体が認知する活動です。

「善を行うのに飽いてはいけない」。地道な努力が実り、チラシの全市町内会配布(行政協力)、大会、複数回の啓発活動、学校巡回や町のリーダーの勉強会等が、年間通じて続いています。当委員会では世界の飢えと貧困の克服のため、国連食糧農業機関(FAO)駐日事務所と連携し、声なき者の友の輪(FVI)とは発足当初より、現地報告を担当して頂き、ともに活動しています。

2020年はコロナ過で計画を自粛する中、FVIの湯本さんをお招きし、第29回目大会とエチオピア児童絵画&FAOパネル写真展示会を開催し、市民の理解が深まり温かい支援を得ることができました。今後とも、「あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。」(聖書)の通り、与える心で、あせらず、あわてず、じっくりと関わり、表題の目標を市民と共有し、ボランティア活動に参加する学生の中から、“登別から世界へ”を目指す人が育つことを期待しています。

寄稿：世界食料デー登別大会実行委員会実行委員長(登別中央福音教会牧師)高橋敏夫

その他の活動(2020年9月～11月)

万座温泉ホテル日進館・カルチャー講演会(群馬県)、帝京科学大学、練馬グレースチャペル、東京武蔵野福音自由教会・礼拝・中高生会(以上東京都)、登戸エクレス教会(神奈川県)、聖望キリスト教会(千葉県)、ZoomによるFVI総会においてFVIカタリストがセミナー、講演会などを通してカタリスト(触媒)としての奉仕させていただきました。各地で隣人を愛する化学反応が起こることを祈りつつ、共に労して下さった皆様に心より感謝いたします。

働きの支援、会費支払いのための送金方法

- ① 郵便振替：口座名：「FVI」 口座番号：00180-0-300201
- ② ゆうちょ銀行、三菱東京UFJ銀行の口座もご利用いただけますので、ご希望される方はお問い合わせください。

* このレターは、希望された方に郵送させていただいています。送付先の変更、差し止めなどは、事務局にお知らせください。

* 国内のカタリストを支援する場合、カタリスト名を、海外の活動を応援する場合、国名などを通信欄にご明記ください。

● 「声なき者の友」の輪 事務局 email:info@karashi.net 090-3036-2776(神田)